

自家発電機

3施設一斉

強化導入

東日本震災に伴う3月の計画停電の際は、安全を最優先にし、停電時の外来診療中止や、透析治療の大幅な時間変更・治療日変更など、図らずも多くの患者さまに迷惑をかける結果となった。

当法人では、医療の現場においての電力が、生命維持活動に直結するものでありながら、電力供給がなされなかった事態を重く受け止めた。しかし、既存の自家発電では、多くの医療機器に長時間、電力供給を続けることは困難であったため、不測の事態に備え、玄々堂君津病院・坂田クリニック・玄々堂木更津クリニックの3施設に、新たに自家発電機を強化導入することに至った。



坂田クリニック



玄々堂君津病院



玄々堂木更津クリニック

発電機は7月14日より3施設へ順次設置、後日、通常電源を止め試運転を行い安全を確認し盛夏に間に合う形で導入が出来た。

今回の自家発電機設置により、停電時であっても、予定を変更することなく透析治療が行えるようになった。

5月22日(日)君津市生涯学習センターに於いて、シンポジウム「君津市の救急医療の現状」君津市の救急医療の現状(君津救急医療シンポジウム実行委員会主催)が開催され、永島嘉嗣院長がシ

ンポジウムとして参加した。君津保健医療圏(木更津・君津・富津・袖ヶ浦の4市で構成)の救急医療について、行政・救急隊・医療機関・市民が一緒になって考えるという初めてのシンポジウムで、永島院長は二次救急医療機関の立場から、二次救急医療機関の置かれている厳しい現状や問題点を話した。

7月22日(金)新館大会議室に於いて、安全対策講演会が行われた。講師に、武蔵野赤十字病院医療安

全推進室 杉山良子氏を迎え、事例要因分析の実際と実践を学んだ。危険予知トレーニングは医療事故未然防止の取り組みだが、気付きの訓練でもあるという事や、事故防止策を考える事は、仕事のやり方をよく考える事であり、業務改善につながり、ひいては医療の安全になるという話を伺った。日頃の業務に直結する内容であり、改めて安全対策の重要性を確認する時間を持つことが出来た。

6月12日(日)君津市保健福祉センターに於いて、玄々堂君津腎友会総会が行われた。玄々堂君津腎友会では、当院で血液透析治療を行う方が集う患者会である。今回、大崎副院長が招かれ、腎センターや自家発電機強化導入につき説明を行った。

5月28日(土)午後1時30分よりリハビリテーション室に於いて第5回リハビリ教室が開催された。今回は「膝・腰注意報発令中!?」痛みを予防し楽しい生活を」というタイトルのもと、3つの内容から膝・腰の痛みに対する知識や、痛み予防のための実践方法等に参加者12名に指導した。

まず1つ目のテーマ「痛みは身体がゆがみ?」アライメントを測定!」では、デジタルカメラを使って、1人1人参加者の立ち姿勢を正面と側面より撮影、プリントアウトして普段の姿勢を撮影画像から確認した。参加者各々の姿勢より膝・腰の痛みの可能性をリハビリスタッフが判断し、個別で指導を行った。

2つ目のテーマ「肉体改造で

膝・腰の痛み予防!」では、リハビリテーション室にあるプラットホーム(寝台)や平行棒を使用して、膝や腰に関わる筋肉のストレッチと筋力強化(筋トレ)方法を指導、実際に参加者も行った。リハビリスタッフがストレッチや筋トレの方法を指導することに加え、実施中の注意点を意識する場所(部位)、より効果を出すためのポイントも指導した。

3つ目の「工夫ひとつで痛み知らずのエンジョイ生活!」では、日常生活の中で痛みを出してしまう点、痛みを予防するための工夫や注意点を挙げ、参加者が自分に当てはまる点や実践できそうな点を見つけ、出来るだけ痛みを感じない毎日を送ることを目指した内容だった。

休憩を挟みながら行った1時間半の教室は、参加者の熱心な傾聴と参加協力により、大盛況であった。

第99回糖尿病教室

6月25日(土)午後2時30分より、第3会議室に於いて糖尿病教室が開催された。

まず初めに、中尾看護師が「糖尿病ってどんな病気?」と題し、糖尿病の基礎知識の話をした。合併症と、夏の暑さを乗りきるための熱中症対策なども含め、幅広い内容であった。

次に、渥美薬剤師が「糖尿病のくすり」について、インスリンの作用や、経口血糖降下薬、インクレチンに関する新薬の話など、低血糖時の対処方法も含め、詳しい説明をした。

病気、薬に続いて、食事について小泉管理栄養士が「クイズで楽しく学ぶ食事の基本」というテーマで、必要エネルギーの出し方、目安量、食塩含有量の多い食品や、菓子パンのカロリーなどについてクイズを織り交ぜて話した。

最後に森理学療法士が、「どうして運動しなきゃいけないの?」というテーマで、運動の基本的な話をした。運動は、いつ?どのよう?何を?と具体的な運動の仕方について、また運動強度について、強すぎたり弱すぎたりするとなぜいけないのかを分かりやすく説明した。

2時間近くの講義を、16名の参加者は熱心に聴き入り、積極的な質疑を交わっていた。

健康教室 開催

第5回 リハビリ教室

5月28日(土)午後1時30分よりリハビリテーション室に於いて第5回リハビリ教室が開催された。

今回は「膝・腰注意報発令中!?」痛みを予防し楽しい生活を」というタイトルのもと、3つの内容から膝・腰の痛みに対する知識や、痛み予防のための実践方法等に参加者12名に指導した。

まず1つ目のテーマ「痛みは身体がゆがみ?」アライメントを測定!」では、デジタルカメラを使って、1人1人参加者の立ち姿勢を正面と側面より撮影、プリントアウトして普段の姿勢を撮影画像から確認した。

参加者各々の姿勢より膝・腰の痛みの可能性をリハビリスタッフが判断し、個別で指導を行った。

2つ目のテーマ「肉体改造で

膝・腰の痛み予防!」では、リハビリテーション室にあるプラットホーム(寝台)や平行棒を使用して、膝や腰に関わる筋肉のストレッチと筋力強化(筋トレ)方法を指導、実際に参加者も行った。

リハビリスタッフがストレッチや筋トレの方法を指導することに加え、実施中の注意点を意識する場所(部位)、より効果を出すためのポイントも指導した。

3つ目の「工夫ひとつで痛み知らずのエンジョイ生活!」では、日常生活の中で痛みを出してしまう点、痛みを予防するための工夫や注意点を挙げ、参加者が自分に当てはまる点や実践できそうな点を見つけ、出来るだけ痛みを感じない毎日を送ることを目指した内容だった。

休憩を挟みながら行った1時間半の教室は、参加者の熱心な傾聴と参加協力により、大盛況であった。

第99回糖尿病教室

6月25日(土)午後2時30分より、第3会議室に於いて糖尿病教室が開催された。

まず初めに、中尾看護師が「糖尿病ってどんな病気?」と題し、糖尿病の基礎知識の話をした。

合併症と、夏の暑さを乗りきるための熱中症対策なども含め、幅広い内容であった。

次に、渥美薬剤師が「糖尿病のくすり」について、インスリンの作用や、経口血糖降下薬、インクレチンに関する新薬の話など、低血糖時の対処方法も含め、詳しい説明をした。

病気、薬に続いて、食事について小泉管理栄養士が「クイズで楽しく学ぶ食事の基本」というテーマで、必要エネルギーの出し方、目安量、食塩含有量の多い食品や、菓子パンのカロリーなどについてクイズを織り交ぜて話した。

最後に森理学療法士が、「どうして運動しなきゃいけないの?」というテーマで、運動の基本的な話をした。運動は、いつ?どのよう?何を?と具体的な運動の仕方について、また運動強度について、強すぎたり弱すぎたりするとなぜいけないのかを分かりやすく説明した。

2時間近くの講義を、16名の参加者は熱心に聴き入り、積極的な質疑を交わっていた。

健康教室 開催

第5回 リハビリ教室

5月28日(土)午後1時30分よりリハビリテーション室に於いて第5回リハビリ教室が開催された。

今回は「膝・腰注意報発令中!?」痛みを予防し楽しい生活を」というタイトルのもと、3つの内容から膝・腰の痛みに対する知識や、痛み予防のための実践方法等に参加者12名に指導した。

まず1つ目のテーマ「痛みは身体がゆがみ?」アライメントを測定!」では、デジタルカメラを使って、1人1人参加者の立ち姿勢を正面と側面より撮影、プリントアウトして普段の姿勢を撮影画像から確認した。

参加者各々の姿勢より膝・腰の痛みの可能性をリハビリスタッフが判断し、個別で指導を行った。

2つ目のテーマ「肉体改造で

膝・腰の痛み予防!」では、リハビリテーション室にあるプラットホーム(寝台)や平行棒を使用して、膝や腰に関わる筋肉のストレッチと筋力強化(筋トレ)方法を指導、実際に参加者も行った。

リハビリスタッフがストレッチや筋トレの方法を指導することに加え、実施中の注意点を意識する場所(部位)、より効果を出すためのポイントも指導した。

3つ目の「工夫ひとつで痛み知らずのエンジョイ生活!」では、日常生活の中で痛みを出してしまう点、痛みを予防するための工夫や注意点を挙げ、参加者が自分に当てはまる点や実践できそうな点を見つけ、出来るだけ痛みを感じない毎日を送ることを目指した内容だった。

休憩を挟みながら行った1時間半の教室は、参加者の熱心な傾聴と参加協力により、大盛況であった。

第99回糖尿病教室

6月25日(土)午後2時30分より、第3会議室に於いて糖尿病教室が開催された。

まず初めに、中尾看護師が「糖尿病ってどんな病気?」と題し、糖尿病の基礎知識の話をした。

合併症と、夏の暑さを乗りきるための熱中症対策なども含め、幅広い内容であった。

次に、渥美薬剤師が「糖尿病のくすり」について、インスリンの作用や、経口血糖降下薬、インクレチンに関する新薬の話など、低血糖時の対処方法も含め、詳しい説明をした。

病気、薬に続いて、食事について小泉管理栄養士が「クイズで楽しく学ぶ食事の基本」というテーマで、必要エネルギーの出し方、目安量、食塩含有量の多い食品や、菓子パンのカロリーなどについてクイズを織り交ぜて話した。

最後に森理学療法士が、「どうして運動しなきゃいけないの?」というテーマで、運動の基本的な話をした。運動は、いつ?どのよう?何を?と具体的な運動の仕方について、また運動強度について、強すぎたり弱すぎたりするとなぜいけないのかを分かりやすく説明した。

2時間近くの講義を、16名の参加者は熱心に聴き入り、積極的な質疑を交わっていた。

健康教室 開催

第5回 リハビリ教室

5月28日(土)午後1時30分よりリハビリテーション室に於いて第5回リハビリ教室が開催された。

今回は「膝・腰注意報発令中!?」痛みを予防し楽しい生活を」というタイトルのもと、3つの内容から膝・腰の痛みに対する知識や、痛み予防のための実践方法等に参加者12名に指導した。

まず1つ目のテーマ「痛みは身体がゆがみ?」アライメントを測定!」では、デジタルカメラを使って、1人1人参加者の立ち姿勢を正面と側面より撮影、プリントアウトして普段の姿勢を撮影画像から確認した。

参加者各々の姿勢より膝・腰の痛みの可能性をリハビリスタッフが判断し、個別で指導を行った。

2つ目のテーマ「肉体改造で

膝・腰の痛み予防!」では、リハビリテーション室にあるプラットホーム(寝台)や平行棒を使用して、膝や腰に関わる筋肉のストレッチと筋力強化(筋トレ)方法を指導、実際に参加者も行った。

リハビリスタッフがストレッチや筋トレの方法を指導することに加え、実施中の注意点を意識する場所(部位)、より効果を出すためのポイントも指導した。

3つ目の「工夫ひとつで痛み知らずのエンジョイ生活!」では、日常生活の中で痛みを出してしまう点、痛みを予防するための工夫や注意点を挙げ、参加者が自分に当てはまる点や実践できそうな点を見つけ、出来るだけ痛みを感じない毎日を送ることを目指した内容だった。

休憩を挟みながら行った1時間半の教室は、参加者の熱心な傾聴と参加協力により、大盛況であった。

第99回糖尿病教室

6月25日(土)午後2時30分より、第3会議室に於いて糖尿病教室が開催された。

まず初めに、中尾看護師が「糖尿病ってどんな病気?」と題し、糖尿病の基礎知識の話をした。

合併症と、夏の暑さを乗りきるための熱中症対策なども含め、幅広い内容であった。

次に、渥美薬剤師が「糖尿病のくすり」について、インスリンの作用や、経口血糖降下薬、インクレチンに関する新薬の話など、低血糖時の対処方法も含め、詳しい説明をした。

病気、薬に続いて、食事について小泉管理栄養士が「クイズで楽しく学ぶ食事の基本」というテーマで、必要エネルギーの出し方、目安量、食塩含有量の多い食品や、菓子パンのカロリーなどについてクイズを織り交ぜて話した。

最後に森理学療法士が、「どうして運動しなきゃいけないの?」というテーマで、運動の基本的な話をした。運動は、いつ?どのよう?何を?と具体的な運動の仕方について、また運動強度について、強すぎたり弱すぎたりするとなぜいけないのかを分かりやすく説明した。

2時間近くの講義を、16名の参加者は熱心に聴き入り、積極的な質疑を交わっていた。

健康教室 開催

第5回 リハビリ教室

5月28日(土)午後1時30分よりリハビリテーション室に於いて第5回リハビリ教室が開催された。

今回は「膝・腰注意報発令中!?」痛みを予防し楽しい生活を」というタイトルのもと、3つの内容から膝・腰の痛みに対する知識や、痛み予防のための実践方法等に参加者12名に指導した。

まず1つ目のテーマ「痛みは身体がゆがみ?」アライメントを測定!」では、デジタルカメラを使って、1人1人参加者の立ち姿勢を正面と側面より撮影、プリントアウトして普段の姿勢を撮影画像から確認した。

参加者各々の姿勢より膝・腰の痛みの可能性をリハビリスタッフが判断し、個別で指導を行った。

2つ目のテーマ「肉体改造で

膝・腰の痛み予防!」では、リハビリテーション室にあるプラットホーム(寝台)や平行棒を使用して、膝や腰に関わる筋肉のストレッチと筋力強化(筋トレ)方法を指導、実際に参加者も行った。

リハビリスタッフがストレッチや筋トレの方法を指導することに加え、実施中の注意点を意識する場所(部位)、より効果を出すためのポイントも指導した。

3つ目の「工夫ひとつで痛み知らずのエンジョイ生活!」では、日常生活の中で痛みを出してしまう点、痛みを予防するための工夫や注意点を挙げ、参加者が自分に当てはまる点や実践できそうな点を見つけ、出来るだけ痛みを感じない毎日を送ることを目指した内容だった。

休憩を挟みながら行った1時間半の教室は、参加者の熱心な傾聴と参加協力により、大盛況であった。

第99回糖尿病教室

6月25日(土)午後2時30分より、第3会議室に於いて糖尿病教室が開催された。

まず初めに、中尾看護師が「糖尿病ってどんな病気?」と題し、糖尿病の基礎知識の話をした。

合併症と、夏の暑さを乗りきるための熱中症対策なども含め、幅広い内容であった。

次に、渥美薬剤師が「糖尿病のくすり」について、インスリンの作用や、経口血糖降下薬、インクレチンに関する新薬の話など、低血糖時の対処方法も含め、詳しい説明をした。

病気、薬に続いて、食事について小泉管理栄養士が「クイズで楽しく学ぶ食事の基本」というテーマで、必要エネルギーの出し方、目安量、食塩含有量の多い食品や、菓子パンのカロリーなどについてクイズを織り交ぜて話した。

最後に森理学療法士が、「どうして運動しなきゃいけないの?」というテーマで、運動の基本的な話をした。運動は、いつ?どのよう?何を?と具体的な運動の仕方について、また運動強度について、強すぎたり弱すぎたりするとなぜいけないのかを分かりやすく説明した。

2時間近くの講義を、16名の参加者は熱心に聴き入り、積極的な質疑を交わっていた。

健康教室 開催

第5回 リハビリ教室

5月28日(土)午後1時30分よりリハビリテーション室に於いて第5回リハビリ教室が開催された。

今回は「膝・腰注意報発令中!?」痛みを予防し楽しい生活を」というタイトルのもと、3つの内容から膝・腰の痛みに対する知識や、痛み予防のための実践方法等に参加者12名に指導した。

まず1つ目のテーマ「痛みは身体がゆがみ?」アライメントを測定!」では、デジタルカメラを使って、1人1人参加者の立ち姿勢を正面と側面より撮影、プリントアウトして普段の姿勢を撮影画像から確認した。

参加者各々の姿勢より膝・腰の痛みの可能性をリハビリスタッフが判断し、個別で指導を行った。

2つ目のテーマ「肉体改造で

膝・腰の痛み予防!」では、リハビリテーション室にあるプラットホーム(寝台)や平行棒を使用して、膝や腰に関わる筋肉のストレッチと筋力強化(筋トレ)方法を指導、実際に参加者も行った。

リハビリスタッフがストレッチや筋トレの方法を指導することに加え、実施中の注意点を意識する場所(部位)、より効果を出すためのポイントも指導した。

3つ目の「工夫ひとつで痛み知らずのエンジョイ生活!」では、日常生活の中で痛みを出してしまう点、痛みを予防するための工夫や注意点を挙げ、参加者が自分に当てはまる点や実践できそうな点を見つけ、出来るだけ痛みを感じない毎日を送ることを目指した内容だった。

休憩を挟みながら行った1時間半の教室は、参加者の熱心な傾聴と参加協力により、大盛況であった。

第99回糖尿病教室

6月25日(土)午後2時30分より、第3会議室に於いて糖尿病教室が開催された。

まず初めに、中尾看護師が「糖尿病ってどんな病気?」と題し、糖尿病の基礎知識の話をした。

合併症と、夏の暑さを乗りきるための熱中症対策なども含め、幅広い内容であった。

次に、渥美薬剤師が「糖尿病のくすり」について、インスリンの作用や、経口血糖降下薬、インクレチンに関する新薬の話など、低血糖時の対処方法も含め、詳しい説明をした。

病気、薬に続いて、食事について小泉管理栄養士が「クイズで楽しく学ぶ食事の基本」というテーマで、必要エネルギーの出し方、目安量、食塩含有量の多い食品や、菓子パンのカロリーなどについてクイズを織り交ぜて話した。

最後に森理学療法士が、「どうして運動しなきゃいけないの?」というテーマで、運動の基本的な話をした。運動は、いつ?どのよう?何を?と具体的な運動の仕方について、また運動強度について、強すぎたり弱すぎたりするとなぜいけないのかを分かりやすく説明した。

2時間近くの講義を、16名の参加者は熱心に聴き入り、積極的な質疑を交わっていた。

健康教室 開催

第5回 リハビリ教室

5月28日(土)午後1時30分よりリハビリテーション室に於いて第5回リハビリ教室が開催された。

今回は「膝・腰注意報発令中!?」痛みを予防し楽しい生活を」というタイトルのもと、3つの内容から膝・腰の痛みに対する知識や、痛み予防のための実践方法等に参加者12名に指導した。

まず1つ目のテーマ「痛みは身体がゆがみ?」アライメントを測定!」では、デジタルカメラを使って、1人1人参加者の立ち姿勢を正面と側面より撮影、プリントアウトして普段の姿勢を撮影画像から確認した。

参加者各々の姿勢より膝・腰の痛みの可能性をリハビリスタッフが判断し、個別で指導を行った。

2つ目のテーマ「肉体改造で

膝・腰の痛み予防!」では、リハビリテーション室にあるプラットホーム(寝台)や平行棒を使用して、膝や腰に関わる筋肉のストレッチと筋力強化(筋トレ)方法を指導、実際に参加者も行った。

リハビリスタッフがストレッチや筋トレの方法を指導することに加え、実施中の注意点を意識する場所(部位)、より効果を出すためのポイントも指導した。

3つ目の「工夫ひとつで痛み知らずのエンジョイ生活!」では、日常生活の中で痛みを出してしまう点、痛みを予防するための工夫や注意点を挙げ、参加者が自分に当てはまる点や実践できそうな点を見つけ、出来るだけ痛みを感じない毎日を送ることを目指した内容だった。

休憩を挟みながら行った1時間半の教室は、参加者の熱心な傾聴と参加協力により、大盛況であった。

第99回糖尿病教室

6月25日(土)午後2時30分より、第3会議室に於いて糖尿病教室が開催された。

まず初めに、中尾看護師が「糖尿病ってどんな病気?」と題し、糖尿病の基礎知識の話をした。

合併症と、夏の暑さを乗りきるための熱中症対策なども含め、幅広い内容であった。

次に、渥美薬剤師が「糖尿病のくすり」について、インスリンの作用や、経口血糖降下薬、インクレチンに関する新薬の話など、低血糖時の対処方法も含め、詳しい説明をした。

病気、薬に続いて、食事について小泉管理栄養士が「クイズで楽しく学ぶ食事の基本」というテーマで、必要エネルギーの出し方、目安量、食塩含有量の多い食品や、菓子パンのカロリーなどについてクイズを織り交ぜて話した。

最後に森理学療法士が、「どうして運動しなきゃいけないの?」というテーマで、運動の基本的な話をした。運動は、いつ?どのよう?何を?と具体的な運動の仕方について、また運動強度について、強すぎたり弱すぎたりするとなぜいけないのかを分かりやすく説明した。

2時間近くの講義を、16名の参加者は熱心に聴き入り、積極的な質疑を交わっていた。

健康教室 開催

第5回 リハビリ教室

5月28日(土)午後1時30分よりリハビリテーション室に於いて第5回リハビリ教室が開催された。

今回は「膝・腰注意報発令中!?」痛みを予防し楽しい生活を」というタイトルのもと、3つの内容から膝・腰の痛みに対する知識や、痛み予防のための実践方法等に参加者12名に指導した。

まず1つ目のテーマ「痛みは身体がゆがみ?」アライメントを測定!」では、デジタルカメラを使って、1人1人参加者の立ち姿勢を正面と側面より撮影、プリントアウトして普段の姿勢を撮影画像から確認した。

参加者各々の姿勢より膝・腰の痛みの可能性をリハビリスタッフが判断し、個別で指導を行った。

2つ目のテーマ「肉体改造で

膝・腰の痛み予防!」では、リハビリテーション室にあるプラットホーム(寝台)や平行棒を使用して、膝や腰に関わる筋肉のストレッチと筋力強化(筋トレ)方法を指導、実際に参加者も行った。

リハビリスタッフがストレッチや筋トレの方法を指導することに加え、実施中の注意点を意識する場所(部位)、より効果を出すためのポイントも指導した。

3つ目の「工夫ひとつで痛み知らずのエンジョイ生活!」では、日常生活の中で痛みを出してしまう点、痛みを予防するための工夫や注意点を挙げ、参加者が自分に当てはまる点や実践できそうな点を見つけ、出来るだけ痛みを感じない毎日を送ることを目指した内容だった。

休憩を挟みながら行った1時間半の教室は、参加者の熱心な傾聴と参加協力により、大盛況であった。

第99回糖尿病教室

6月25日(土)午後2時30分より、第3会議室に於いて糖尿病教室が開催された。

まず初めに、中尾看護師が「糖尿病ってどんな病気?」と題し、糖尿病の基礎知識の話をした。

合併症と、夏の暑さを乗りきるための熱中症対策なども含め、幅広い内容であった。

次に、渥美薬剤師が「糖尿病のくすり」について、インスリンの作用や、経口血糖降下薬、インクレチンに関する新薬の話など、低血糖時の対処方法も含め、詳しい説明をした。

病気、薬に続いて、食事について小泉管理栄養士が「クイズで楽しく学ぶ食事の基本」というテーマで、必要エネルギーの出し方、目安量、食塩含有量の多い食品や、菓子パンのカロリーなどについてクイズを織り交ぜて話した。

最後に森理学療法士が、「どうして運動しなきゃいけないの?」というテーマで、運動の基本的な話をした。運動は、いつ?どのよう?何を?と具体的な運動の仕方について、また運動強度について、強すぎたり弱すぎたりするとなぜいけないのかを分かりやすく説明した。

2時間近くの講義を、16名の参加者は熱心に聴き入り、積極的な質疑を交わっていた。

健康教室 開催

第5回 リハビリ教室

新任医師 紹介 コーナー

玄々堂君津病院に、外浦功医師、井上恵一医師、田中広章医師、工藤真司医師、西山成一医師、佐藤和弘医師、玄々堂木更津クリニックには、副院長として住吉義光医師が着任しました。中には馴染みのある医師もおりますが、紹介を兼ねて、5つの質問に答えてもらいました。



田中 広章 医師 消化器外科 医長



井上 恵一 医師 呼吸器内科 医長



外浦 功 医師 消化器外科 医長



西山 成一 医師 腎臓内科



工藤 真司 医師 移植・腎臓 外科医長



住吉 義光 医師 玄々堂木更津ク リニック副院長



佐藤 和弘 医師 血管外科 医長

Q1. 出身は？

外浦医師 千葉県です。幼少期は各地を転々しました。
井上医師 宮城県仙台市です。
田中医師 神奈川県横浜市です。
工藤医師 千葉県柏市です。
西山医師 埼玉県です。
佐藤医師 あらの福島県です。
住吉医師 徳島県小松市です。

Q2. 血液型は？

外浦医師 O型
井上医師 A型
田中医師 A型
工藤医師 O型
西山医師 泣く子も黙るB型
佐藤医師 A型
住吉医師 B型

Q3. 趣味・特技は？

外浦医師 気晴らしに水泳をやっていたのですが、最近はそのもやっつません。そろそろ再開しようかと思っています。将来的には子供と釣りでもやりたいと思っています。
井上医師 子育て
田中医師 スポーツカー、カメラ、コンピュータ、楽器(シンセサイザー、ギター等)、デジタ

Q4. 仕事のモットーを教えてください

外浦医師 「自分の今持っている力で患者さまの役に立つ」
井上医師 過不足なく淡々と
田中医師 確実にすばやく
工藤医師 質の高い医療の提供。明るく楽しく！
西山医師 患者さまに治療の理由をわかしてもらいたい、どうしてか。患者さまに何か辛い症状があるから治療する場合と、症状は無くても5年後10年後に重大な合併症を起こさないために治療をする場合があります。多くの場合は後者です。患者さまは「具合が悪くないのに・・・」と内心思っておられる

Q5. 最後に一言お願いします

外浦医師 先輩方がつくってくださった伝統を随所に感じます。できるだけ負担を公平化しようとする姿勢やシステムは、今まで働いていたどの病院よりも優れていると思います。微力ながら当院のお役に立てれば幸いです。
井上医師 よろしくお願致します。
田中医師 ロールルーラーに早く慣れたいと思います。
工藤医師 よろしくお願致します。何かありましたら気軽に声をかけて下さい。
佐藤医師 血管・一般外科疾患を中心に診療を行ってきたいと思っています。よろしくお願致します。
住吉医師 非常勤務で2年間お世話になりました。常勤務でも宜しくお願いします。

これって... ウソ? ホント?

健康に関心を持つ人が増えている今、日々の診療の中で患者さまから寄せられる質問にお答えします。

食に関する人間の欲望は永遠の課題で、特に美味しい食事に避けて通れない成分がコレステロールです。ですから、次から次にいろいろな話題がでてきます。今回は、昨年大きな話題となった「コレステロールは高いほうが長生きする」という質問にお答えします。

近年コレステロールの治療は、日本動脈硬化学会が、日本全国どこでも患者さまが均等な医療を受けることを目的にガイドラインを作成し、現場の医師がそれを参考に診療しています。

このガイドラインは、国内外の数十年にも及ぶ地域住民の健康調査で、高コレステロール血症、

コレステロールが高いと長生きする？

副院長 荻野 良郎



低LDLコレステロール血症、高中性脂肪血症が全死亡及び心血管(狭心症及び心筋梗塞、脳卒中)死亡を増加させるという事実、さらにこれをうけて十万人以上にも及ぶ患者さまで、コレステロールを食事療法や薬物治療により低下させると、これらの病気が20〜30%減少するという事実などを十分考慮して作成されています。

低LDLコレステロール血症、高中性脂肪血症が全死亡及び心血管(狭心症及び心筋梗塞、脳卒中)死亡を増加させるという事実、さらにこれをうけて十万人以上にも及ぶ患者さまで、コレステロールを食事療法や薬物治療により低下させると、これらの病気が20〜30%減少するという事実などを十分考慮して作成されています。

この発表に動脈硬化学会は、かんかんになって反論し、一時は大変な騒ぎでした。しかし今思うに、ほとんどの患者さまは報道に左右されず冷静にふるまい、大変立派なものでした。これは、今までコレステロールの危険性について、十分な説明と理解があったためだと思います。賢人あるいは匠と思われる学会の重鎮より、患者さまが賢かったと安心しております。

Q5. 最後に一言お願いします

外浦医師 先輩方がつくってくださった伝統を随所に感じます。できるだけ負担を公平化しようとする姿勢やシステムは、今まで働いていたどの病院よりも優れていると思います。微力ながら当院のお役に立てれば幸いです。
井上医師 よろしくお願致します。
田中医師 ロールルーラーに早く慣れたいと思います。
工藤医師 よろしくお願致します。何かありましたら気軽に声をかけて下さい。
佐藤医師 血管・一般外科疾患を中心に診療を行ってきたいと思っています。よろしくお願致します。
住吉医師 非常勤務で2年間お世話になりました。常勤務でも宜しくお願いします。

悪い「あぶら」ってなに? どうして悪い?

管理栄養士 小泉 美佐子



みなさん、悪い「あぶら」って何を想像しますか?
酸化した油? 今話題のトランス脂肪酸? 肉の脂? 外食やお惣菜の油? イメージは様々だと思います。確かに、酸化しすぎた油を食べると、吐き気、腹痛、下痢となりま

健康な成人で体重60kgの人では一日に摂れる脂質は50g〜60g。ステークといえは、サーロイン。一枚200gのステーキで、なんと約100gの脂質が含まれます。脂身の少ない肉なら、サーロインの1/3。肉はなるべく赤身とし、肉よりの頻度を多くすること、生活習慣病予防になります。また、調理に用いる油は、一日に炒めるくらいの油料理2〜3皿が目安です。マヨネーズやゴマ油

LDLコレステロールを増やさない食生活は、過食しない事、肉類を中心とした食生活を避けることです。また、体内の酸化を防ぐために、酸化物質であるカロテンやビタミンC、ビタミンEを不足しないように摂ることも重要です。カロテン、ビタミンCは、野菜や果物に多く含まれます。ビタミンEは、ナッツ類や油に多く含まれます。ビタミンEは、極端に偏った食事では不足することはありません。体に必要な「あぶら」。でも、摂り過ぎると体に悪影響を及ぼす「あぶら」。今日から、どうつきあいますか?



腎移植の現状

近年、腎臓病における医療は著しく変化しています。成因を問わず軽微な腎障害が心血管疾患の危険因子であることが明らかになり、腎臓病の早期発見、治療介入が末期腎不全への進展はもとより、生命予後や患者さまのQOLの改善につながります。末期腎不全における腎代替療法に関しては、2010年に臓器移植法が改定されたことで臓器移植提供の増加が見られ、医学的に最も優れた治療法である腎移植の普及が望まれています。今回は腎移植の現状に関して述べたいと思います。

日本における腎移植の成績です。医学的に最も優れているとはいえ、移植した腎臓は一生もつとは限りません。移植した後に拒絶反応によって機能しなくなる場合もあります。1982年以前の生体腎移植は1年生存率82.6%、5年生存率70%であったのに対し、2000年以降は1年生存率97%、5年生存率91%まで改善しています。移植成績が向上した理由には、MMFやバシリキシマブといった新しい免疫抑制剤の導入があげられます。世界的にはハイリスクとされる血液型不適合移植においても、そのメカニズムの解明により治療成績は飛躍的に向上し、血液型適合移植と比較しても全く遜色なく良好です。以前は親子間の血液型適合移植が多かったのですが、最近では夫婦間の血液型不適合移植が増加しています。

これはドナー手術における腹腔鏡手術の導入とならび、血液型不適合移植成績の向上が関与しています。また、免疫抑制剤を用いず移植臓器に拒絶反応を起こさせない状態、すなわち免疫寛容を導入した腎移植も臨床応用され始めています。新たな免疫抑制剤の開発により腎移植はより有効で確立された治療法となったのです。しかしながら、日本における腎移植件数は増加傾向ではあるものの、2009年は約1300件と米国の約1万6000件に比べると極端に少ないのが現状です。また、献腎移植に限って言えば、20数年来にわたって約200件前後で変わらず、60-70%が脳死を中心とした献腎移植である米国とはかなり違いがあります。この背景には脳死に対する国民理解の差も

ありますが、医療側においても患者側においても移植に対して特殊な医療と位置付けている現状があります。これは移植医療における教育がほとんどされないことや、これまでの腎代替療法の選択における血液透析に中心を置いた医療体制、社会情勢の影響があげられます。腎移植が確立した医療となつた現在、腎臓が悪くなつたら透析に移行するだけでなく、患者さまの病態はもちろん、ライフステージや人生観を考慮し、個々の患者さまに最適な治療法を選択できる体制整備が望まれます。これは、末期腎不全患者の腎代替療法の選択のみならず、透析患者における合併症の治療選択等すべての疾患においていえることだと思います。当院は2010年に総合腎臓病センターを設立し、腎臓病医療における地域の中核病院に位置しています。バスキュラーアクセス、腎性上皮小体機能亢進症、末梢動脈疾患等の多様な透析合併症はもとより、国民の10人に1人が罹患している慢性腎臓病のどのステージに対しても質の高い医療を提供できるよう努力して参ります。もちろん、究極の腎代替療法でもある腎移植にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

七夕飾りとコンサート

ボランティアの七夕は、5月から準備が始まります。皆でよった紙縋りを短冊に通し七夕飾りを作り始めます。6月中旬になると、病棟・外来・坂田クリニック・玄々堂木更津クリニックに笹が設置されます。その飾り付けをボランティアが行います。7月7日には、外

ボランティア通信



来にステージを造り、七夕コンサートを行いました。3A病棟によるハンドベルの演奏に続き、リハビリ室による「座ってできる体操」を会場の皆様と一緒に、最後に玄々堂君津病院保育所の子供たちによる「七夕の歌とダンス」の披露と、楽しい時間を過ごしました。車イスで来てくださる入院患者様のお迎えや、会場設営など、ボランティアもいっしょに汗をかいた1日でした。



制服リフォーム 外来にある車イスの背中に、青色やピンク色の袋をかけてあるのに気付かれましたか？当院特製の車イスポケットです。車イスを押す時、このポケットに手荷物を入れておくことができます。これで、介助する方が、両手で車イスのハンドルを持ち安全に操作できるよ

うになります。これは、古くなった職員制服を交換した際、その一部をボランティアが譲り受け、手作業ボランティアがリフォームした作品です。丈夫にミシンがかけられた制服を、ファスナー、ベルト、布などに丁寧に縫製して、病院作業と、職人並みの縫製で、病院内で使う様々なものに作り直され、各所で活躍中です。当院オリジナル手作業ボランティアのリフォーム作品に注目してみてください。



移植・腎臓外科医長 工藤 真司 医師

腎センター 便り

総合腎臓病センターからの情報コーナーです。今回は4月に着任した移植・腎臓外科医長 工藤医師に最近の腎移植について伺いました。

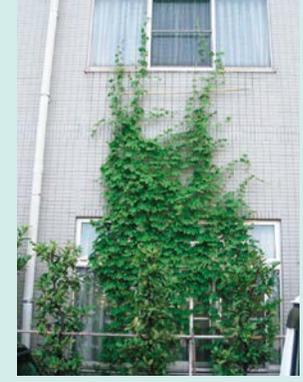
ありですが、医療側においても患者側においても移植に対して特殊な医療と位置付けている現状があります。これは移植医療における教育がほとんどされないことや、これまでの腎代替療法の選択における血液透析に中心を置いた医療体制、社会情勢の影響があげられます。

バスキュラーアクセス外来開始
総合腎臓病センターでは、蛋白尿から腎不全、そして急性血液浄化療法まで腎臓病を総合的に診療しています。このたび、予約なしでも受診できる「バスキュラーアクセス外来」を始めました。
血液透析治療を行う方は、シャントや人工血管などを使い、治療を行っていますが、この血管のトラブル時に、早急に対応できるよう体制を整えました。
診療案内
*受付 月～土 8時30分～11時 祝日休診
*お電話での予約も可能です。
☎ 0439(52)2750 (総合腎臓病センター代表)
*診療情報提供書を持参下さい。

節電対策 - グリーンカーテンづくり

3月の計画停電以降、病院内では、皆様の協力とご理解のもと、職員一丸となり節電に取り組んでいます。ただ、この暑さ。電気を消しても、エアコンを控えても、それだけでは身体も気持ちもついていきません。ということ、窓際に机のある医療相談室と、2階の薬局、玄々堂木更津クリニックの3か所で、グリーンカーテンづくりを始めました。医療相談室は西洋あさがおと垣根あさがお、

薬局と玄々堂木更津クリニックは、ゴーヤとあさがお作り挑戦です。普段は庭仕事など行わないメンバーの作物づくり。いざ始めると、トラブル続き。どうにも成長しない。簡単にできるなど思っていたのが間違っていました。やはり、にわか庭師では作物も応じてくれないようです。目に涼しい、身体にも涼しい、気持ちにやさしい、おなかに美味しいを目指し、取り組みましたが、成果はいかがでしょうか。この新聞が発行される時には結果が出ているはずですが...



2011/2012 冬シーズン

インフルエンザ ワクチン

今シーズンのインフルエンザのワクチン株は昨年と同じ次の3株が選定されました。

- ・A型カリフォルニア /7/2009 (H1N1) pdm09
- ・A型ヴィクトリア /210/2009 (H3N2)
- ・B型ブリスベン /60/2008



昨年インフルエンザワクチンを接種されていても効果は5ヶ月程度で、今シーズンには効果がなくなっておりますので、インフルエンザ予防には再接種が必要です。

ではいつ頃接種したらよいのでしょうか？

インフルエンザの流行期間を正確には予想することはできません。

昨シーズンの当院のインフルエンザは12月下旬から始まり、1月下旬をピークに2月から3月にかけて徐々に下火になりました。

例年ですと10月すぎに接種が開始されます。ワクチンの効果が現れるまで、通常2週間ほどかかりますので、一般的には遅くとも12月中旬までには済ませたほうがよいと思われる。

介護の現場から

【玄々堂ヘルパーステーション】

所長 板倉 裕子



玄々堂ヘルパーステーションは、君津訪問看護ステーションの併設施設として、平成16年に開設され現在に至っています。訪問介護員（ホームヘルパー）は、「介護のプロ」として、質の高い介護サービスの提供を目指しています。医療法人が設置主体で、かつ、管理者が看護師という訪問介護事業者はあまり多くありません。その特徴から、人工呼吸器のような、いわゆる医療を多く必要とする方や、病状が変化しやすい方、寝たきりで動けない方等にも、安全に専門的な介護を行っています。また、生活の中で家事にかかわる部分への援助も、利用者の病状に応じた食事作りや、自立に向けた「できる」ところはいっ

当法人で行っている介護保険事業の中の訪問介護について、玄々堂ヘルパーステーション所長の板倉さんに伺いました。

介護保険が始まって10年以上が経過しました。介護保険は「介護を社会で支える」「利用者本意」「自立支援」を理念とし創設された制度であり、高齢化の進行とともに利用者が増加の途を辿っています。要支援・要介護を合わせると、全国で約五百万人の人が認定を受けて、自宅や介護保険施設で様々なサービスを利用しています。



しよにする」という姿勢も大切にしています。併設の訪問看護ステーションとは管理者が同じで、事務所を共有していることもあり、細かな情報交換をタイムリーにすることができ、訪問介護に必要な専門的な知識や技術は、訪問看護師や理学療法士からも得ることができ、病院内で開催される様々な研修会に参加する機会にも恵まれています。

そんなことが訪問介護員にとっては何よりも嬉しいこと。今日も訪問先から楽しい笑い声が聞こえてきそうです。

玄々堂ヘルパーステーション 営業案内

月～土曜日 8:30～17:00
日・祝日・年末年始休業
サービス提供地域
君津市・木更津市・富津市
利用の申込み
ケアマネージャーに相談
問い合わせ先
0439(53)2055

ブログ始めました

当院のホームページ内でブログを始めました。

病院行事やサークル活動の紹介等タイムリーな話題を随時更新しています。

<http://www.gengendo.jp/>



予約専用ダイヤル 変更について

平成21年11月よりご利用いただいていた予約専用フリーダイヤルは平成23年2月28日をもって都合により廃止させていただきました。

平成23年3月1日より診察予約のお電話
0439-52-7068
で承っております。
(受付時間 9:00～16:00)

※時間帯により混雑の為、繋がりにくい場合がございます。
※受付時間外の対応は致しかねますのでご了承ください。

「いやさか君津踊り」に参加しました

8月7日(日)君津市民ふれあい祭りが開催され、祭りのメインイベントである「いやさか君津踊り」に今年も参加しました。

揃いの法被に身を包んだ約60名の職員は、元気よく声を出し合い、息の合った踊りを見せました。



編集後記
汗だくでがんばりました。(IWC)
今回もがんばって作りました。(RS)
夏バディ。やっぱり今年もメタボバディ? (PT)
20年ぶりに新聞委員に復活! 原稿用紙を前に固まる日々に、国語力のなさを痛感しました。(CS)
今回、体調不良の為、あまりお役に立てず申し訳ありませんでした。熱中症には用心! (LDH)
食欲の秋に向けウォーキング開始。(K)
歴代編集長の思いを感じる日々でした。決して甘くはなかった! (I)
来年こそ、グリーンモンスターを完成させるぞ。(リョウ)
今年も半年経ってしまっとなあ。(てつ)
季節の変わり目を先どりしたい気分です。(ちひで)
ただただ311の犠牲者の方々のご冥福と、被災地の復興を祈るばかりです。(しんいち)



特定保健指導を行っています!
特定健康診査とは、メタボリックシンドロームに着目した健診を受けていただくこと。特定保健指導とは、その健診結果、生活習慣病の発症リスクがあり、生活習慣の改善により生活習慣病の予防効果が大きく期待できる方に対して、生活習慣を見直すサポートをするものです。
特定健康診査の結果、ご加入の保険者から対象の方に利用案内や利用券が配布されます。当院では、動機づけ支援または、積極的支援の対象者に対して、食生活と運動習慣のサポートをしています。
予約制になっていきますので、利用券をお持ちの方は、まずは電話にてお問い合わせください。
■特定保健指導実施日
木・金・土曜日
14時～16時
■問い合わせ先
0439(52)2366

君津市 高齢者用 肺炎球菌ワクチン 接種費用助成について

君津市では、平成23年4月1日より、高齢者の肺炎球菌ワクチン接種費用助成制度が施行され、当院は君津市高齢者用肺炎球菌ワクチンの協力医療機関となりました。

君津市に住所があり、次の全てに該当する方は、当院で肺炎球菌ワクチン接種の際、接種費用の助成が受けられます。

1. 接種日において満65歳に達している
2. 過去5年以内に肺炎球菌ワクチンを接種していない

接種前に市の健康管理課、各行政センターへ助成申請をしてください(予診票が交付されます)。

ワクチン接種は予約制となっております。直接お申し出いただくか、お電話で予約をお取りください。